

2018年11月4日

## 福音書からのメッセージ

第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。

(マルコによる福音書12章31節)

今日、桃山基督教会では「オリーブまつり」を開いています。今年のテーマは、「みんなとの出会い、神さまとの出会い」です。周りを見渡すとすでに、「この人誰だろう？」って思う人がいるかもしれません。そして今日のイベントを通して、神さまを感じることができたらと思います。今日は「みんな」、そして「神さま」について少し考えてみましょう。

今日の聖書の中で、律法学者と呼ばれる人がイエス様に質問をしました。律法学者は律法という掟を学び、きちんと守り、そして人々に教えていた人たちです。その人が聞きます。あらゆる掟、つまり決まりごとの中で、何が一番大事なもののなかと。わたしたちの周りにも、たくさんの決まりごとがあります。その中でこれだけは守らなければならないものとは、何なのでしょう。

イエス様の答えはこうでした。一つは神さまを愛すること、そしてもう一つは隣人、となりにいる人を自分のように愛すること、この二つより大切なものはないと。わたしたちは、このイエス様の言葉を今、この場で聞いたとしたならば、どのような反応をするのでしょうか。今日は特に、となりの人を愛するという事に目を向けたいと思います。

みなさん、今となりにいる人を愛していますか。愛するっていうとちょっとむずがゆいかもしれません。言い方を変えましょう。今となりにいる人を、自分のように大切にしていますか。となりの人が泣いていたら自分も同じように悲しくなり、となり



の人が笑っていたら自分もいつの間にか笑顔になり、そしてとなりの人と一緒に怒ることができますか。

隣に座っているのが自分の小さな子どもだったら、心から「はい、愛しています」

と言えるでしょう。では夫婦でとなりどうしになっていたら、どうでしょうか。それどころか、しゃべったこともなく初めて顔を見た人だったらどうですか。「愛していますか」と言われても、困るのではないのでしょうか。

しかしイエス様は、別の箇所でこう言われます。「あなたが普段、口を利かない人。一緒に食事をしない人。仲間だと思っていない人。あなたが嫌っている人。いろんな考えが違う人。触れたくもない人。そのような人も、あなたのとおり人だ」と。

とても難しいことです。しかしわたしたちは、目の前にいる人だけでなく様々な人のことを思い、その人の痛みを自分の痛みとして受け止め、その人の涙を自分の悲しみとして感じたい、そう思うのです。

そのときに、わたしたちは遠くにいる誰かと、そして神さまとも出会えるのではないのでしょうか。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>